

【技術名】 体系処理による雑草防除

## 初期除草剤＋初中期除草剤の体系処理で 農薬費用を2～3割削減できます

### 【技術の要約】

省力的に散布でき、安価な初期除草剤及び初中期除草剤の体系処理を行うことで、初期発生の雑草に対する防除が確実となるとともに、農薬費用を初中期除草剤＋中後期除草剤の体系よりも2～3割削減することができます。

### 【技術の内容】

- 1 初期除草剤と初中期除草剤との体系処理により、初中期除草剤の処理時期を遅らせることが可能になり、後発雑草に対する残効切れを防ぎ、中後期除草剤の散布が省略できます。
- 2 初期除草剤は中後期除草剤より安価な剤が多く、コストの削減につながります。
- 3 初期除草剤には田植え同時散布や、畦畔からの散布、水口処理が可能な除草剤があり、省力化につながります。

表1 10a当りコスト削減率の例

初中期除草剤（約3,000円）＋ 中後期除草剤（約2,800円）＝	約5,800円
初期除草剤（約1,400円）＋ 初中期除草剤（約3,000円）＝	約4,400円
コスト削減金額	約1,400円
コスト削減率	約26%

### 【留意事項】

- 1 田面の露出がないよう、丁寧に代かきを行います。
- 2 除草剤処理は水深5cm程度の深水で行います。
- 3 除草剤処理後7日間は、水田の水が水田外へ流出しないようにします。
- 4 雑草の葉齢をよく確認して処理してください。
- 5 使用にあたっては、農作物病害虫・雑草防除基準を参照してください。